

高知精神保健

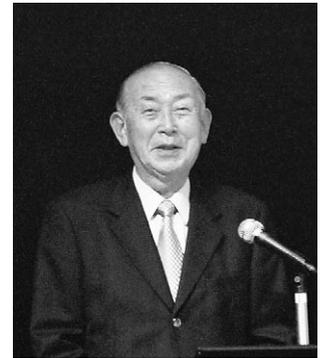
発行所 高知市丸の内1丁目2-20
 高知県健康福祉部健康づくり課内
 高知県精神保健福祉協会
 電話：088(823)1111・088(823)9669(直)
 FAX：088(873)9941
 E-mail：kochi-mhwa@s2.dion.ne.jp
 発行人 池田 久男 編集人 谷 晃

第233号

≡平成19年度≡

第52回定例総会を終えて

高知県精神保健福祉協会 会長 池田 久男



第103回日本精神神経学会市民公開講座で講演する池田会長

平成19年度の第52回高知県精神保健福祉協会定例総会が、平成19年4月24日三翠園ホテルで開催されました。当日は、総会前に第1回理事会が、そして総会後には会員による懇親会が例年のごとく和やかに開催されました。

今年度の総会の主な議題は、1)平成18年度事業実施報告及び決算報告、2)役員改選等について、3)平成19年度事業計画(案)及び予算(案)でした。いずれの議題も会長から提案説明があり、特に質問もなく、出席者全員のご承認を受けることができました。以下に具体的な議事を紹介いたします。

1)平成18年度事業実施報告;a)定例総会は年に1回、平成18年4月28日に、理事会は年に4回、4月、6月、9月および平成19年1月に開催されました。全国精神保健福祉連絡協議会と第54回精神保健福祉全国大会が平成18年10月23、24両日に、千葉市で開催されました。本県からは会長が出席し、浜渦すま子(高知鏡川病院)、清藤理恵(土佐病院)の両氏が日本精神保健福祉連盟会長表彰を受賞されました。また四国4県精神保健福祉連絡協議会は平成19年2月16日、徳島市で開催され、「個人会員の拡充」について意見交換がなされました。

b)事業実施報告は、広報部、大会事業部、総合福祉部、調査研究部、研修部、および基金管理運営部の事業実績が、各部の委員長から報告されました。c)平成18年度決算が事務局より報告され、引き続いて会計監査報告があった後、出席者全員のご承認を受けることができました。

2)役員改選等について;平成19年度は役員改選の年にあたっていないため、大会委員長以外の各事業部の委員長は、すべて留任していただきました。大会実行委員長には、高知大学副学長の井上新平副会長が、日本精神衛生会との共催で、精神保健シンポジウムを高知市で開催予定のため、指名されました。

平成19年度より、須藤浩一郎先生(土佐病院)の顧問就任が承認されました。

3)平成19年度事業計画(案)および予算(案)について;具体的な事業計画や予算は、本年6月開催予定の第2回理事会に提案されますので、本総会にはその骨格のみが提案され、承認を受けました。今年度の全国大会は富山県で本年10月に開催予定です。

目次

平成19年度 第52回定例総会をおえて…………… 1
 池田久男会長が受勲…………… 2
 自販機で地域防災と障害者就労支援…………… 2

第103回日本精神神経学会総会…………… 2
 高知県精神保健福祉卓球大会の結果について…………… 3
 長編ドキュメンタリー映画「悲しきワルツ」上映会…………… 4

以上が第52回高知県精神保健福祉協会定例総会のあらましですが、最後に会長より「あり方検討委員会」の設置が提案され、出席者全員の承認をいただきました。具体的には、本年6月に開催予定の第2回理事会で人選や議題を検討していただきます。現段階で会長自身が期待している議題には、平成20年という節目の年にあたり、新しい役員の人選や、協会財政の健全化のための具体的方策について検討していただきたいと思っています。会員の皆様のご意見をお寄せください。

池田久男会長が受勲

内閣府が行う平成19年「春の受勲」において、当協会会長・池田久男氏(元高知大学学長)が、教育研究功勞によって「瑞宝重光章」を受賞されました。

当協会では、平成19年6月5日の第2回理事会において井上副会長が代表して、池田会長に花束を贈呈しお祝いを申し上げました。

◎自販機で地域防災と 障害者就労支援

株式会社ムラタの取り組み

自動販売機を設置し清涼飲料水等を販売している株式会社ムラタは、設置場所となる公共施設などに対して、近い将来に予想される震災などの災害時

において①災害時に自販機内の在庫商品を無償で提供できる機能を持つ災害救援機(ライフラインベンダー)、



②備蓄用の水の協賛、
③自動体外式除細動器(AED)の寄付などを提案し、県内各地に実績を重ねてきました。



同社ではこのたびさらに自社の自販機の清掃作業を、障害者自立支援法に基づく就労支援をしている中土佐町・安芸市・高知市の三組織に業務委託を行い、障害者が清掃をする台数を順次増加させつつあります。

人の集まる場所に飲料水の自販機を設置することで、非常時の水分補給の装置として活用される一方、日々は障害者が定期的に清掃作業を行うことで自販機を清潔な状態に保つことが出来、多く人の集まる場所で「生き活きと働く障害者」の姿を地域に見えるようにすることで、障害者の社会参加の場を開こうとしています。

一台で飲料水の購入者だけでなく、その設置場所の地域の防災、そして清掃に携わる障害者に働く場を与える、そんな自動販売機がみなさんのお近くにも増えつつあります。このような工夫がいろいろな分野でさらに広がることを期待しています。

問い合わせ先:株式会社ムラタ(高知市大津乙1834-5、TEL088-866-6116 担当=吉井郁)

第103回日本精神神経学会総会

平成19年5月17日(木)から19日(日)

高知県立文化ホール・高知新阪急ホテル

会長:井上新平(高知大学副学長)

第103回日本精神神経学会総会が、平成19年5月17日(金)から19日(土)まで高知県立文化ホールおよび講師新阪急ホテルを会場として開催されました。

三日間にわたりたくさんの会場に分かれ、講演・



シンポジウム・発表・研修が熱心に行われ、最終日には県民文化ホール(グリーン)において「市民公開講座」も開催されました。

市民公開講座においては、池田久男当協会会長(高知大学名誉教授)による講演「こころの健康－メンタルヘルスと家族－」と、加藤進昌教授(昭和大学・付属烏山病院長)による講演「アスペルガーってなに？ ADHDは治るの？－発達障害の脳科学から－」が行われました。

講演において池田会長は、家族の継時的変化を「新婚期、幼児期、教育期、自立期、向老期、孤老期」と分けそれぞれの達成課題を見つめ、ひとつの家族が社会生活の基本的な信頼関係確立の場となり、生活の空間・時間・体験を共有するなかでしつけと自立を両立しながら、世代が連鎖的継続的に繋がっていく有様について述べられました。



市民公開講座修了後
記念の楯を贈呈する井上学会長

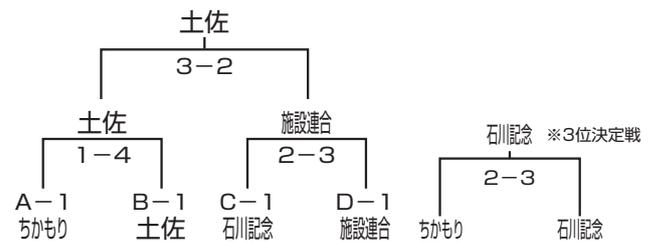
平成19年度 高知県精神保健福祉卓球大会の結果について

高知県精神保健福祉協会 総合福祉部

- I と き 平成19年7月3日(火)
- II ところ 県民体育館(高知市棧橋通2丁目)
- III 日 程 開会式 9:10 試合開始 9:30
閉会式 14:45
- IV 参加団体 16施設
土佐病院、海辺の杜ホスピタル、藤戸病院、同仁病院、メンタルクリニックちかもり、高知ハーモニーホスピタル、岡豊病院、細木ユニティ病院、石川記念病院、南国病院、高知ダルク、施設連合、一陽病院、田辺病院、芸西病院、棧橋みどりクリニック
- V 個人戦
男子個人戦優勝 …… 施設連合
男子個人戦準優勝 …… 施設連合
女子個人戦優勝 …… 細木ユニティ病院
女子個人戦準優勝 …… 土佐病院

●団体戦の結果

- 優勝 土佐病院
- 準優勝 施設連合
- 第3位 石川記念病院
- 第4位 メンタルクリニックちかもり



疲れた時と肌あれに。

チョコラBBプラス

吸収のよい補酵素型の
ビタミンB2主剤。医薬品の効きめ。

チョコラBBプラス 【医薬品】

効能・効果 ● 次の場合のビタミンB2の補給：肉体的疲労時、妊娠・授乳期、病中病後の体力低下時
 ● 次の諸症状の緩和：肌あれ、かぶれ、ただれ、にきび、湿疹、皮膚炎、口内炎、口角炎、口唇炎、舌炎、赤鼻、目の充血、目のかゆみ「ただし、これらの症状について、1か月ほど使用しても改善がみられない場合は、医師又は薬剤師に相談すること。」
 ◎服用に際しては、使用上の注意をよく読んで正しくお使いください。

長編ドキュメンタリー映画上映会

悲しまワルツ

—障害者自立支援法を問う—

撮影・構成・監督／山本二昭

平成10年7月29日(土)高知県立美術館ホールにおいて、障害者自立支援法について多方面からの証言で構成されたドキュメンタリー映画が公開されました。

「障害者自立支援法の出来た背景、特徴、問題点」

高知県立高知女子大学社会福祉学部
田中きよむ教授

制度の持続可能性は、利用者やサービス提供者にとっても担保されるか。社会保障の私的保障化ノーマライゼーションは応益負担か。一般就労が自立なのか。



「市町村をつなぐ県の立場」

安芸福祉保健所精神保健福祉相談員
田所淳子

市町村ごとに障害福祉計画を社会的入院から地域での生活へ一割負担と利用者・事業者の取り組み



「当事者の意見」

サポートびあメンバーT・Y

働きたくても働けない人がいる。一般の人に障害者のことをもっと知ってもらわないと世の中に出ていけない。



「当事者を援助」

生活支援センターこうち 川竹亜子

まだ制度が複雑で全体像がはっきりしない。これからさらに経済状況や制度が変わって行っても福祉の本来あるべきところからそれないように。

「障害者自立支援法の外から」

SOHO事業者・ワス高知
宮本猛敏

身体障害者となって自分で働く場所を25年前に作った。コンピューターによる情報処理、障害者8名の会社。法や制度が自立の妨げとなっている側面。



「利用料を取る、ということ」

野いちごの場所 野村みちよ

利用者も職員も同じ仕事をしている。商品の売り上げで工賃を上乗せ出来るよう頑張る。

「老人介護と知的障害に関わる」

上田祐嗣

高齢者と障害者のケアマネジメントの違い。障害者の個性が反映されるか。介護の大量生産方式を障害者に持ち込もうとしているのでは。



「年金生活を圧迫する法律」

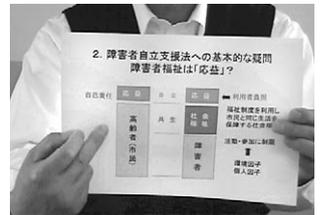
石谷 侑

妻がパーキンソン病で身体障害に。世帯課税で妻にも課税。きのこ型の世代構成を政治家は考えて来たのか。夜通しの看病と生活苦を知っているのか。

「社会基盤としての障害者福祉」

高知県障害者(児)福祉協会
理事 武田廣一

障害者自立支援法の意義は認めるが、福祉という観点で抜け落ちているのでは。社会福祉がカバーすべき部分にまで利用者の応益負担が求められているのでは。医療と福祉、福祉と雇用をつなぐ職業リハビリテーション法として中身を整備していくべき。



◎問い合わせ先

山本 二昭
(TEL 09011746622)



吉富薬品株式会社

「医薬を通じて、人々の健康と幸福に貢献したい。」
これが吉富薬品の願いです。



DAINIPPON SUMITOMO PHARMA

からだ・くらし・すこやかに

大日本住友製薬株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町2-6-8 <http://www.ds-pharma.co.jp/>

